

2022年度事業所自己評価結果

まなびのひろば 駅家教室 令和 5年 3月

	チェック項目	工夫している点、改善目標等
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	利用者が集中して学習やトレーニングができるようレイアウト等を工夫している。
	2 職員の配置数は適切であるか。	基本的に個別療育が提供できるよう配置している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。	完全なバリアフリー化はされていないが、事故防止のために環境整備をしている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、広く職員が参画しているか。	定期的にミーティングを行い、業務改善に努めている。また、職員全員参加のミーティングの際には、研修やトレーニングも行っている。
	5 保護者の方等向け評価表を活用する等により、アンケート調査を実施して保護者の方等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	アンケートや面談時に保護者の意向をお聞きし、それを取り入れ必要時には改善している。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	事業所のホームページで公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	関係連携機関から当事業所への意見等を聞き、必要に応じて改善している。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	事業所内外での研修を定期的実施している。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、お子さまと保護者の方のニーズや課題を客観的に分析した上で、計画を作成しているか。	定期面談や日々の療育内容を伝える際に保護者のニーズを聞き取り、アセスメントを行い、計画に反映させている。
	10 お子さまの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	利用開始時には、事業所で作成したアセスメントツールをもとに保護者に聞き取りを行っている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	個別に計画されたプログラムが円滑に進むように毎日職員ミーティングを行っている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	利用者の状況に合わせてプログラムの変更が必要な時はその都度対応している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。	基本的な設定は放課後と学休日で変わらないが、利用者に変化がないか細やかに確認している。
	14 お子さまの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる計画を作成しているか。	基本的には個別の活動だが、休憩時間やイベントの際には小集団での活動も計画し取り入れている。

2022年度事業所自己評価結果

まなびのひろば 駅家教室 令和 5年 3月

適切な支援の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	療育開始前には職員全体でミーティングを行い、支援のポイントや気を付けることなどを共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	療育終了後にはミーティングを行い、支援の改善点や上手くいったことなどを話し合い職員全体で共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	子ども達の様子や学習に対する支援のポイントや意図が分かるように記録している。
	18	定期的にモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断しているか。	定期的なモニタリングを行い、計画の見直しや修正を行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか。	ガイドラインを参考にし、子ども一人一人の状況に合わせて創意工夫を図りながら支援している。
関係機関や保護者との連携関係や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にそのお子さまの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	子どもの特性や支援内容を理解している職員が参画している。
	21	学校との情報共有、連絡調整を適切に行っているか。	必要に応じて、学校と連携を図り支援の方向性を共有している。
	22	医療的ケアが必要なお子さまを受け入れる場合は、お子さまの主治医等と連絡体制を整えているか。	現在は医療的ケアが必要な利用者はいないが、必要となった時は連絡体制を考え、整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	必要に応じて情報共有し相互理解に努めるようにしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか。	現在までにはないが、今後必要時には情報共有を行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	現在までにはないが、今後必要時には連携し助言や研修を受けることも検討していく。
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	定期的に行われる協議会に参加している。
	27	日頃からお子さまの状況を保護者の方と伝え合い、お子さまの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	療育後のフィードバックでお伝えしたり、随時HUGシステムで療育記録を確認して頂き、情報共有している。
	28	保護者の方の対応力の向上を図る観点から、保護者の方に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか。	日々のフィードバックや定期面談で、保護者の良いところ、上手くいっているところを伝えている。

2022年度事業所自己評価結果

まなびのひろば 駅家教室 令和 5年 3月

保護者への説明責任等	29	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	契約時には確実にお伝えし、必要と思われる時にはその都度お伝えしている。
	30	保護者の方から子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	相談にはその都度対応し、できる限りの支援をさせて頂いている。
	31	お子さまや保護者の方からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、お子さまや保護者の方に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	苦情についての申し出は契約時にお伝えしている。申し出があった際には速やかに適切に対応し、改善のための行動を職員で共有している。
	32	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連携体制等の情報をお子さまや保護者の方に対して発信しているか。	イベント等のお知らせを配布したり、HUGシステムを活用して活動の様子をお伝えしている。
	33	個人情報に十分注意しているか。	職員間で意識の統一を図り、徹底している。
	34	障害のあるお子さまや保護者の方との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	お子様や保護者に合った伝え方を考え、分かりやすく正確に伝わるよう工夫している。
	35	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	こども110番の看板を設置したり、地域の行事への協賛等に取り組んでいる。
非常時等の対応	36	緊急時対応マニュアルなどを策定し、職員や保護者の方に周知しているか。	教室内に掲示し、職員間でも意識の徹底を図っている。保護者との面談の際にも、改めて知って頂けるようお伝えしていく。
	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	定期的に避難訓練等を実施している。
	38	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	定期的に事業所内外で研修している。
	39	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	日々の療育前後のミーティングや全体会議で情報共有し、事故防止に努めている。